

■釧路公立大が競り勝つ。春季オープン戦が開幕

北海道学生アメリカンフットボール連盟が所管する2023年春季オープン戦が6月18日、帯広畜産大グラウンドで幕を開けた。昨年の道学生選手権（秋季リーグ）4位の帯広畜産大が、同3位の釧路公立大を迎えての一戦は、釧路公立大が終了間際に決勝TDを奪い21-14で競り勝った。

時折強風に見舞われたものの、快晴に恵まれた好コンディションの中の開幕戦となった。先制したのは帯広畜産大。第1Q3分、敵陣28ヤードからの攻撃でQB外崎智文（3年、大野農業高）が逆風を突いてWR桂田陽向（2年、福井・若狭高）へTDパスを鮮やかに決めた。PATも桂田が確実にけりこんで、7-0とリードした。



第2、3Qは点の取り合いになった。まずは釧路公立大の反撃。3分に敵陣21ヤードからの攻撃でQB山口響生（3年、札幌清田高）が投じたパスを、エンドゾーン内でWR高坂駿佑（3年、滝川西高）がDBと競り合いながらTDキャッチ。6-7と追いつけた。帯広畜産大も8分、QB外崎からWR桂田への48ヤードTDパスで14-6と、再びリードを広げた。釧路公立大は第3Q、敵陣1ヤードまで押し込むP菊地悠斗（1年、芽室高）の好パントとインターセプトで好機をつかむと、5分にRB田中巨人（3年、足寄高）が4ヤードダイブでTD。PATもWR高坂へのパスを決めて14-14と追いつ



いた。

勝負どころの第4Q。終盤の攻防が明暗を分けた。帯広畜産大は、釧路公立大のパントミスでつかん好機に敵陣6ヤードまで攻め込み、残り3分で23ヤードのFGを狙ったが惜しくも失敗。一方、釧路公立大は残り1分、RB与那覇裕夢（1年、沖縄・読谷高）の72ヤードTDランが飛び出して、接戦にけりを付けた。

殊勲のRB与那覇は「左オープンのプレー。外にスペースがあったので、スピードで勝負した。エンドゾーンまでめちゃくちゃ長かった」と快走を振り返り、「釧路公立大は2年連続で新人賞

を取っている。自分も目指したい」と大きな目標を掲げた。高木瞭HCは「1年生が戦力になったのが今日の収穫。北大と北海学園大の2強をつぶす自信につながる」と手ごたえを強調していた。

一方、帯広畜産大のOL西龍一郎主将は「正レシーバーをけがで欠く中でパスで2本取れ、ランも出せた。守備も良かった」と、こちらも収穫を強調しながら「（7月23日の）北海学園大戦で、細かなところをもっと詰めたい」と修正点を挙げていた。

（広報委員 塚田博）